



すくすく

子どもたちへ 一番大切な贈り物

かねはら小児科院長 金原 洋治

この夏のアテネオリンピックでは日本の若者が大活躍し、私達に元氣と勇氣を吹き込んでくれました。一方、記録的な猛暑と記録的に風の強い台風とが日本列島を襲い、自然のなせる業とはいえ大変な夏でした。この異常気象の原因は何でしょう？ 私達の快適な暮らしが生んだ代償では？ という思いが頭の中をよぎった時に、レイチエル・カーソンの最後の著作「センス・オブ・ワンダー」の一節を思い出しました。

「消化する能力が、まだ備わっていない子どもに、事実を鵜呑みにさせるよりも、むしろ子どもが知りたがっているような道を切り拓いてやることの方がどんなに大切であるか分かりません。もし、あなた自身は自然への知識をほんの少ししか持つていないと感じていたとしても、親として、沢山のことを子どもにしてやることが出来ます。例えば、子どもと一緒に空を見上げてみましょう。そこには、夜明けや黄昏の美しさがあり、流れる雲、夜空にはまたたく星があります。子どもといっしょに風の音を聞くことも出来ます。それが森を吹き渡るゴーゴーという声であろうと、家のひさしや、アパートの角でヒューヒューという風のコーラスであろうと。そうした音に耳をかたむけているうちに、あなたの心は不思議に解放されていくでしょう。」(センス・オブ・ワンダー：レイチ

エル・カーソン 上遠恵子訳 新潮社)
テレビやビデオ、ゲームにパソコン、幼児期からの塾通い、子ども達の生活は慌しく流れ、昔と比べて自然と触れる機会は確実に少なくなつて来ています。お父さんやお母さんも、子育てやお仕事などで忙しい方も多いと思います。センス・オブ・ワンダーは、毎日の生活をもう一度考え直すことと、忙しくても、日々の暮らしの中で子どもと一緒に自然を感じる時間を取ることの重要性を改めて教えてくれます。みずみずしい感性を持つ幼児期に親と子が一緒に時を過ごし、生きている自然を感じ合う一時を持つことは、誰にも出来そうですね。明日から早速実行してみましよう。センス・オブ・ワンダーを育むために。

実態を世に先駆けて告発した本で、世界中で農薬の使用を制限する法律の制定を促すと共に、地球環境への人々の発想を大きく変えるきっかけとなったことはご存じの方も多いと思います。センス・オブ・ワンダーは、カーソンが姪の息子のロジャーと海辺や森の中を探検し、星空や夜の海を眺めた経験をもとに書かれた本です。彼女の豊かな感性と格調高く美しい文章には驚嘆させられます。

特に感銘を受けた一節をご紹介します。「子ども達の世界は、いつも生き生きとして新鮮で美しく、驚きと感激に満ち溢れています。残念なことに、私達の多くは大人になる前に澄み切った洞察力や、美しいものの、畏敬すべきものへの直感を鈍らせ、

金ちゃん先生の講演会・研修会(10月~12月)

| | | |
|-----------|------------------|-----------|
| 10月18日(月) | 午後 軽度発達障害児の理解と支援 | 川棚小学校 |
| 10月28日(木) | 午後 軽度発達障害児の理解と支援 | 宇部市総合福祉会館 |
| 11月 4日(木) | 思春期の子ども達の心と体 | 山の田中学校 |
| 11月 4日(木) | 学校での医療的ケアについて | 下関養護学校 |
| 11月11日(木) | 子ども達に伝えたいこと | 梅光幼稚園 |

小児発達研究会のお知らせ

日時：平成16年11月6日(土)14時より
場所：じねんじょ(かねはら小児科4階)
内容：ダウン症の子ども達の理解と支援
講師：いまいずみ小児科 今泉 清先生(前神奈川県立医療センター遺伝科) 院長の山口大学時代の同級生です



8月21日(土)・22日(日)に大分で開催された日本外来小児科学会にて



私達は、こんなワークショップに参加してきました！

子どもや家族のメンタルヘルスに関して

作業療法士 日野 富美

当院のように個人の開業医院で、心理相談や小児のリハビリテーション(作業療法)を行っているところはまだ少ない状況ですが、メンタルヘルスの相談件数は年々増加しています。参加者は皆、その必要性を感じ意欲的に取り組もうとしております。

発達や子育ての悩みなど不安を感じたことを、かかりつけの親しみのある医院で相談ができ、必要ならば、より専門的な指導を身近でうけられることで、少しでもお母様方の安心につながるようにと思っています。今後ともより一層、子育てのサポートをさせていただけるように努力したいと思います。

特別講演では、高崎山の「サルの子育ての話」で、集団社会の中で生きていく上でのしつけを祖母～母～子へとしっかりと伝えていく姿に考えさせられる面もありました。また、「眠りの話」では夜遅い時間まで起きていて、朝起きられない子ども達が増えていることや、その睡眠の乱れが心身の健康や行動に影響をおよぼすことが報告されていました。「早寝早起き」はとても大切だと再認識いたしました。

待合室における看護

看護師 吉村 一美

全国各地より小児科外来看護師が集まり、子ども達が病気にかった時のお母さん方への病気に対する注意事項や説明対応、どの様に話すと不安を与えずに理解して頂けるかを話し合いました。特に、感染症・嘔吐下痢症・脱水症状時の説明の仕方についての発表が多くみられました。病気について説明する内容も、スタッフ全員が勉強会を開き職員が答えられる様にし、不安を持ったまま帰宅されない様に心掛ける事の大切さを痛感させられました。

今回、学会で学んだ事を今後の診察時介助や患者さん対応に役立てて行きたいと思っています。

こだわりの診察室

看護師 岡田 奈代美

私が(こだわりの診察室)に出席を希望した理由は、他医院の診察室が、どのような雰囲気を持ち、又診察の介助する上で、何かいい方法があるのでは?と思い出席しました。

全国各地より58医院、総数100名の出席者があり、その内の36医院の診察室や、こだわっている物の写真を医院別にファイルにされ、それぞれの代表者が発表しました。こだわっている事で多かったのは、こども達に恐怖心や不安感を感じさせない様な明るい雰囲気作りで、子どもの目線に合わせてのおもちゃやぬいぐるみの設置、壁絵(キャラクターや季節ごとの可愛い絵)などがあげられました。当院でも木のおもちゃや、ぬいぐるみが設置され、先生の机にケロップーのシールが貼ってあったり、時には院長はキャラクターのネクタイを締めています。診察時では当医院でも心がけていますが、必ず看護師が介助に付き、子どもやご家族の方々に声がけをし、少しでも不安をとり除ける様にしている事でした。

今回出席した学会の学びを、今後の診察時における介助に役立て、受診してよかったと安心して頂ける、あたたかい雰囲気作りが出来る様に努めたいと思います。



外来における電話活用法

事務員が参加

電話を使って、私たち事務員や看護師が、患者さんにどのようなことをしてあげられるかを話し合いました。患者さんからかかってくる電話はもちろん、時にはこちらからも様子をお伺いするという少しの気遣いで、お互いの安心になります。よその小児科でされている電話活用は、私達とは違った様々な工夫がみられ、とても参考になりました。これからも患者さんの側に立った対応を心がけていきます。

8月21日(土)は休診をいただき、ご迷惑をおかけしましたが、有意義な時間を過ごすことが出来ました。ありがとうございました。

お知らせ

ポリオの接種が始まります

接種期間：10月4日(月)～11月中旬まで
曜日：月、火、水、金
時間：12時 予約制です



インフルエンザの予防接種を始めます

接種開始 10月18日(月)～12月末日まで
1回の料金 1歳～5歳 2000円
6歳～18歳 2500円
19歳以上 3000円



12歳までは、2～4週間の間隔をあけて2回接種します。特別な事情のない方は土曜日を避けて下さい。

11月13日(土)・12月4日(土)の午後2時～4時の間にも、インフルエンザの予防接種をします。対象は小学生以上の方、ご家族の仕事の都合で土曜日にしか来院が出来ない方です。予約制で、両日とも先着80名に限ります。

お早めに御予約をどうぞ!!

保険証更新のお知らせ

10月1日より国民健康保険の被保険者証が新しくなっています。一般の方は黄色の保険証です。診療にかかれる際は必ずお持ち下さい。

おすすめの本

「ちゃんとたべなさい」

ケス・グレイ/文 ニック・シャラット/絵 小峰書店

あなたの子供さんは食べ物の中で何かきらいですか？
そしてあなたは？

子どもさんのきらいなものを食べて欲しい時に、どうやって説得していますか?『きらい!』『イヤだ!』と言われて頭を悩ませているお母様方も多いかと思ひます。『きらいなものがあってもいいじゃない。無理しなくてもいいよ』と親子で楽しく読める本です。

外来の文庫にあります。ご利用下さい!!

ちゃんとたべなさい



編集後記

日本外来小児科学会に参加し、全国の小児科のスタッフと交流して感じたことは、どこのスタッフも皆、思いは一緒だということです。同じ様な事で悩んだり、失敗したり、また、楽しかったり、喜びを感じたり!日本全国で子どもたちの笑顔に元気をもらい働いている同士とともに、これからも頑張ります!

半熟ラ・フランス